

# 日本小水力躉購費率現況

## 中小水力分級

1	200kW未滿	34円(9.18)
2	200kW~1,000kW	29円(7.83)
3	1,000kW~5,000kW	27円(7.29)
4	5,000kW~30,000kW	20円(5.4)

## 中小水力分級 (既設導水路活用型)

1	200kW未滿	25円(6.75)
2	200kW~1,000kW	21円(5.67)
3	1,000kW~5,000kW	15円(4.05)
4	5,000kW~30,000kW	12円(3.24)



# 日本中小水力發電FIT認定導入狀況

< 中小水力發電 (新設) のFIT認定量 >

單位: kW (件)

認定 (新設)	200kW未満	200kW以上 1,000kW未満	1,000以上 5,000kW未満	5,000以上 30,000kW未満	合計
2012年度認定	2,409( 31件)	7,877(15件)	12,394( 5件)	54,251( 5件)	76,932( 56件)
2013年度認定	5,434( 55件)	11,112(19件)	18,120( 9件)	186,181(15件)	220,848( 98件)
2014年度認定	10,459(107件)	20,715(37件)	50,527(22件)	228,859(21件)	310,560(187件)
2015年度認定	4,014( 51件)	7,079(14件)	4,774( 2件)	59,640( 4件)	75,507( 71件)
2016年度認定	5,218( 57件)	6,877(15件)	5,527( 3件)	193,514(13件)	211,136( 88件)
2017年度認定	1,813( 26件)	2,870( 6件)	7,999( 2件)	47,641( 4件)	60,323( 38件)
2018年度認定	3,518( 58件)	864( 2件)	6,303( 3件)	21,830( 1件)	32,515( 64件)
2019年度認定	3,365( 45件)	5,727( 9件)	20,866( 7件)	14,700( 2件)	44,658( 63件)
2020年度認定	3,897( 53件)	9362(16件)	33,039(10件)	82,980( 5件)	129,278( 84件)
2021年度認定	501( 7件)	840( 1件)	0( 0件)	0( 0件)	1,341( 8件)
合計	40,628(490件)	73,322(134件)	159,549(63件)	889,598(70件)	1,163,097(757件)
件(%)	65%	18%	8%	9%	100%

✓ 近10年中小水力發電新設(認定)件數達757件(1.16GW) , 以<200kW件數490件比例最高 , 達65%。

◆ 資料來源：日本經濟產業省、韋峰能源股份有限公司整理；

<https://www.meti.go.jp/press/2020/03/20210324004/20210324004.html>



# 合理的躉購費率才能凝聚 企業關注並投入小水力事業

➤我國機電設備與自動控制系統方面技術能力充足，但缺乏水輪機與發電機組合經驗

➤小水力發電屬於應地產業，場域對應之機擇搭配相當重要

### 小水力發電 產業發展 潛在問題

➤高山地區雖有較高水頭，但易受枯水季影響，且山區開發成本高，對廠商較無誘因。

#### 市場誘因問題

- 缺乏足夠躉購誘因導致投資意願較小
- 小水力發電設備較少國產機組，開發商投資成本較高，回收年限較長

#### 電力併網問題

- 小水力發電機組由於發電量較小，不利於長距離傳輸，如何與台電併網或自發自用需要依照設置地點考量

# 新設小水力躉購費率建議值：

	裝置容量級距	建議費率
一	1kw~30kw	7.8元/度
二	31kw~200kw	6.0元/度
三	201kw~2,000kw	4.5元/度
四	2,001kw~20,000kw	3.5元/度

